

# 世界遺産学習だより

大田市教育委員会石見銀山課

(世界遺産学習担当)

Tel 0854-82-1600(内線 338)

E-mail isan-gakushu@iwamigin.jp

## 「熱い思いが、子どもを熱くする」

奈良教育大の中澤先生、世界遺産教育と ESD について講演

2月16日(土)午後、男女共同参画センターあすてらすで、世界遺産学習講座が開催されました。教師、ガイド、市職員など約30名が参加。講師は奈良教育大学持続発展・文化遺産教育研究センターの中澤静男先生。先生は、奈良における世界遺産教育とESDの草分けであり、強力なリーダーとして、全国を駆け回っておられます。

まず私たちへの最初の質問にドキリ。「石見銀山で一番伝えたいことは何ですか」。みなさんはどのように答えますか。「本当に伝えたいことが感動を呼ぶ」、「教師の情熱が子どもを育てる」、「世界遺産学習やESDは、もの知りを育てることが目的ではない。わかっただけではだめ。行動を変えることが大事」など私たちの心をゆさぶるような言葉が次々と飛び出してきました。

しかし、平成13年度から始まった奈良市での世界遺産教育もはじめから今のように盛り上がっていたわけではないようです。「丸投げ、教員の勉強不足、遠足気分」などの批判が次第に克服され、奈良市全体に学習の輪が広がったということです。教員の研修も徐々に増えていまでは年間11回。実践研修会・実践発表会も行われ、若いリーダーもたくさん育ってきているそうです。

大田市での世界遺産学習ははじまったばかり。奈良市で



中澤先生の講演に聞き入る参加者(あすてらす)

の経験は、これからの私たちの道しるべにもなるように思います。学校での銀山学習に、ガイド・地域のみなさん・行政などさまざまな立場の人がかかわることで、学習が深まることを願っています。

### ■参加者の感想～アンケート調査から

- ・「熱意」という言葉に心を動かされた。「石見銀山で何を本当に伝えたいのか」という根本的な問いを重く受けとめた。価値観と行動の変革が目的、という明確な方向性を示していただき、ありがとうございました。
- ・すばらしい講座でした。よい研修の機会となりました。できれば、大田市内の全小中学校の担当者に参加してほしいかったです。とくに石見銀山の教材化のヒントを話して下さりたいへん参考になりました。

### □□□□□□□□□□□□□□□□ 銀山関係学習情報 □□□□□□□□□□□□□□□□

- 3/07 **大和小学校** 6年生9人、世界遺産センターで、展示を見学し、事前学習で不明な点を職員に質問。その後、龍源寺間歩を見学し、晴れていれば山吹城登山(悪天候の場合は町並み見学)。
- 3/08 **島根中央高校** 地域創造コースと現代ビジネスコース専攻の2年生30人を対象に、遺産センター職員が出前授業。「ふるさと学」について講義。
- 3/12 **島根中央高校** 地域創造コースと現代ビジネスコースの2年生30名と1年生全員(86名)が本谷地区で竹の伐採等の環境保全活動。12月に予定していたが悪天候で延期になっていた。

## 現地学習の多様化の必要性

石見銀山資料館 藤原雄高

今年度の現地学習の実績を見ると、行程はある一定のパターンに偏っている傾向が見られます。すなわち大森・銀山地区を訪れたほぼ全ての小中学校が世界遺産センター（以下、センター）を利用し、大部分の学校が一様に大久保間歩や龍源寺間歩へ入坑しています。その後、半分の学校がそのまま町並みを見学しています。これはセンターが現地学習の窓口であり、センターでの事前学習が銀山学習の根底に据えられているためであると考えられます。

確かにセンターは遺跡の概要を学ぶのには有用な施設ではありますが、センターを起点としたコース設定にパターン化しては、銀山学習そのものが形骸化につながる恐れがあります。なぜなら石見銀山遺跡は、鉱山の遺跡だけではなく、銀の生産から運搬・積み出しに至る全体像が良好に残っていることに特徴があるからです。その特徴を活かすには、もっと多様なコース設定にすべきではないでしょうか。

またもうひとつの傾向として、銀山学習の主体が小学6年生と中学1年生に集中している点があります。これは大田市が小中学校の間に少なくとも一度ずつ現地見学を組み入れた銀山学習を目指している点からすれば、問題はないのかもしれませんが、しかし、できることなら子どもの発達段階に応じたプログラムを作成し、各年代で銀山学習を積み重ねていけるような仕組みをつくるべきではない

でしょうか。

例えば、金沢 21 世紀美術館では、市内全校の小学 4 年生を招待しています。これは 4 年生が最も現代美術から豊かな感覚・感性を育てる年代であると考えているためです。小学 6 年生で初めて日本史を勉強するから、ということではなく、子どもの発達の段階を考慮し、総合的な学習の時間における銀山学習の狙いを明確化しなければなりません。そのためには本物の資料を如何に見せていくかという工夫も必要でしょう。

幸いにも、石見銀山遺跡は歴史・地理・自然など、様々な学習の切り口のあるフィールドミュージアムです。今後はそれぞれの学校の地域性や学習内容、子どもの発達段階を踏まえながら、多様なプログラムやコースの設定をおこない、将来的には小・中学校で一貫性のある銀山学習になるよう努めていくべきであると考えます。



江戸時代の海岸絵図を見る小学生

### 江戸幕府の代官群像～石見銀山に関する図書紹介⑩

＜村上直著 同成社 1997（平成9）年刊＞

石見銀山は、江戸幕府の直轄地であった。およそ 150 カ村からなる。代官（奉行）は、幕末までに 59 人（預かりを含む）。平均の任期は約 5 年、転勤族である。

この本には、はじめに代官制度、代官の任務などが記され、全国の代官所（寛政 12 年では 58 か所）に勤務した数百人の代官の中から 24 名の代官が選ばれ、出自や功績などがコンパクトにまとめられている。石見銀山からは、初代大久保石見守長安、19 代井戸平左衛門、31 代川崎平右衛門定孝の 3 名が取り上げられた。それぞれの代官（奉行）が銀の増産や民生安定のために行った施策が詳しく紹介されている。江戸時代の代官について手軽に学べる図書の一つである。

